

上信越高原国立公園
(志賀高原地域)

指 定 書

平成 31 年 1 月 31 日

環 境 省

目 次

| | | |
|---|-------------------------|---|
| 1 | 上信越高原国立公園の指定理由..... | 1 |
| 2 | 上信越高原国立公園志賀高原地域の概要..... | 2 |
| | (1) 景観の特性..... | 2 |
| | ア 地形、地質..... | 2 |
| | イ 植生..... | 2 |
| | ウ 野生生物..... | 3 |
| | エ 自然現象..... | 3 |
| | オ 文化景観その他の特殊景観..... | 3 |
| | (2) 利用の状況..... | 4 |
| | (3) 社会経済的背景..... | 4 |
| | ア 土地所有別..... | 4 |
| | イ 人口及び産業..... | 4 |
| | ウ 権利制限関係..... | 5 |
| 3 | 公園区域..... | 7 |

1 上信越高原国立公園の指定理由

① 景観（同一風景中、我が国の風景を代表する傑出した自然の風景地）

上信越高原国立公園は、その名が示すとおり群馬県、長野県及び新潟県の3県の県境にまたがる国立公園であり、^{あさまやま}浅間山、^{あずまやさん}四阿山、^{しらねさん}白根山及び^{いわすげやま}岩菅山等の火山群やそれらの山麓の火山性高原をはじめとして、谷川連峰等の構造山地に、巨大な溶岩台地である^{なえぼやま}苗場山の地域等を合わせ、我が国を代表する山岳及び高原景観地として、面積約15万haの範囲が昭和24年9月7日に国立公園に指定された。これに妙高、戸隠、野尻湖一帯の面積約4万haの地域が昭和31年7月10日に追加指定され、その後、平成27年3月27日に妙高、戸隠、野尻湖一帯の面積約4万haが「妙高戸隠連山国立公園」として分離独立し現在の区域となっている。

本地域は、成層火山やカルデラ、火山性高原等の火山活動により様々な地形と、氷食による断崖・岩壁や^{じゃもんがん}蛇紋岩植生が見られる非火山性構造山地等を有し、我が国の風景を代表する傑出した自然の風景地である。

② 規模（区域面積が原則として3万ha以上）

本国立公園の区域面積は148,194haである。

※苗場地域が再検討未了のため、正確な面積については今後大きく変わりうる。

③ 自然性（原生的な景観核心地域が原則として約2,000ha以上）

本国立公園の原生的な景観の核心地域は17,741haであり、その区域面積は2,000haを超える。

④ 利用（多人数による利用が可能）

平成10年に開催された冬季オリンピック・パラリンピック長野大会の会場となるなど、上質な雪質を利用したスキー場が早くから開発されているほか、数多くの温泉が知られている。グリーンシーズンにおいては湿原や湖沼周辺の散策をはじめ、登山者で賑わい、林間学校等の環境教育の場としても利用されているなど、全国の国立公園の中でも利用に重きが置かれた公園管理がなされている。

以上、「国立公園及び国定公園の候補地の選定及び指定要領（平成25年5月17日付け環自国発第1305171号 環境省自然環境局長通知）」に記載される要件を満たすことから、本地域を国立公園に指定する。

また、本国立公園のテーマを「山と高原が彩るレクリエーションワールド」とし、成層火山やカルデラ、火山性高原等の火山活動による様々な地形と、氷食による断崖・岩壁や蛇紋岩植生が見られる非火山性構造山地の景観要素からなる風致景観を保全し、これらの風致景観を活かして行われる多種多様な利用を適切に推進する国立公園を目指す。

2 上信越高原国立公園志賀高原地域の概要

(1) 景観の特性

ア 地形、地質

本地域は、その中心に標高 2,035.7m の志賀山をはじめ、鉢山、笠ヶ岳、東館山等が近接し、南は横手山から白根山方面に連なり、北東は岩菅山及び本地域で最高峰である裏岩菅山、北方は焼額山からカヤノ平を経て毛無山へと連なり、北北東には雑魚川を隔てて台倉山から遠見山の稜線が鳥甲山まで連なる起伏に富んだ地形である。

志賀高原の中核に位置する志賀山の噴出物等は下流の谷を埋め、その後の浸食を受けて幕岩等の急崖や澗満滝、鳴洞滝を形成している。火山活動の結果、形成されたカルデラでは凹凸が生じ、多数の池及び湿原が創生された。岩菅山の南東域では、魚野川が岩菅山南東側を開析して両岸が切り立ったV字峡谷が形成され、また、カヤノ平は本地域では珍しい噴出物に起因した平坦な地形を呈している。

また、本地域は降雪量が多いことから、標高 2,000m 前後の山地には降雪による地形が形成されている。例えば岩菅山稜線東側では積雪に起因するカール地形、鳥甲山東壁急斜面には雪崩で形成されるアバランチシュートが特徴的である。

本地域は、新第三紀中新世のグリーンタフと呼ばれる緑色凝灰岩類を基盤とし、その上位を第三紀鮮新世の高井火山岩類が被覆している。さらに第四紀更新世前～中期の火山活動による噴出物が火山の形状を一部で残して被覆する。噴出物の多くは安山岩質であるが、玄武岩質から石英安山岩質まで変化に富む。また、魚野川流域のうち、低標高域は本地域の基盤をなす第三紀中新世のグリーンタフと呼ばれる変質を受けた海底火山噴出物及び深海底堆積物が見られ、山体の高標高域は基盤岩を広く被覆する安山岩等の火山岩類である。

注目すべき地形・地質として、志賀山の噴火によって形成された渦巻き溶岩流のほか、溶岩が冷え固まる際に生じる柱状節理があり、本地域西側を流下する角間川の浸食により露頭した急崖である幕岩のほか、岩菅山の山稜下部や、鳥甲山南東部の急崖である布岩や稜線の東側急斜面部に見られる。

イ 植生

本地域は、日本海に近く、標高が 1,000m 以上の地域に位置することから、比較的標高域のブナ、ナラ等を中心とした植生から、高標高域のオオシラビソやコメツガ等の針葉樹林、並びに広葉樹のダケカンバまで連続的な分布が見られる。また、標高 2,000m 付近の稜線等ではハイマツ帯が見られ、森林限界より高標高域では高山植物の群落が形成されている。

岩菅山南東の魚野川源流域には手つかずの状態に残されている広大なブナまたはオオシラビソ等の原生林が広がっているほか、岩菅山から裏岩菅山にかけての稜線部に見られるお花畑には、ハクサンコザクラ等の高山植物が見られ、貴重な景観要素を有している。岩菅山の東側斜面では、頻繁に発生する雪崩に起因する低木群落が見られ、高山帯と合わせてジョウシュウオニアザミ、ホソバコメグサ等の分布範囲の極めて狭い草本類の生育地となっている。

岩菅山の北西斜面の崖地には、本地域では珍しいイチョウシダ等の希少な石灰岩植物が見られ、多様性に富んだ植物相が認められる。

その他、本地域で特筆すべきものとして、志賀山周辺の地域における高層湿原が挙げられる。火山活動により無数の凹地が形成されたことで大小様々な池及び高層湿原が形成されており、いずれも貴重な湿性植物が生育している。特に、北ドブ湿原には分布が南限に当たるチシマウスバスマシ、オオバタチツボスマシの2種が生育しており、植物地理学上も極めて重要である。

ウ 野生生物

本地域周辺では、オコジョやツキノワグマ、カモシカといった哺乳類から、森林性鳥類、河川や湖沼に生息する両生類・爬虫類や魚類、昆虫類等まで、複雑な山岳環境下に多種多様な生物の生息が見られる。特に、国内希少野生動植物種に指定されているイヌワシは、本地域内に複数個体の生息が確認されており、本地域の豊かな自然環境の指標であるといえる。また、雑魚川及び魚野川源流域に生息する在来イワナ個体群は、志賀高原漁業協同組合の長年の保全活動により、現在でも流域単位の遺伝的固有性を保持している。岩菅山の高山帯及び雪崩草地、魚野川源流域のブナ林内のギャップ等に成立する草地は、ベニヒカゲ等の高山性蝶類、オオゴマシジミ等の希少なシジミ類の生息地となっている。

エ 自然現象

本地域周辺では、火山及び気象、水象に関する特徴的な自然現象が見られる。本地域の南西部に位置する地獄谷温泉は角間川の河床から湧出し、北東境界付近に位置する切明温泉は魚野川と雑魚川の合流地点付近の河床から湧出する。また、渋の地獄谷噴泉は、国の天然記念物の指定を受けている。

本地域は標高が高く、厳冬期には気温が日中でも氷点下となるため、標高の高い場所に生育する主として落葉広葉樹の枝に霧氷が形成されやすい。樹氷については、厳冬期にオオシラビソに過冷却の水滴が当たることで形成されるが、本地域では横手山山頂付近で特に樹氷が観察される。また、湧水については、切り立った溶岩の急崖等から亀裂を介して起こるほか、溶岩端部等でも見られる。特に、潤満滝脇の湧水を導水する沓打名水公園内や大沼池入口付近の清水名水公園内等は、地元においても湧水を得られる場所として良く知られ、湧き出た沢水などは志賀高原内の飲料水になっている。さらに、今も数多くの灌漑用水路が残り、麓の農業用水や山ノ内町全体の飲料水になるなど利用されている。

オ 文化景観その他の特殊景観

国指定の天然記念物として、志賀高原石の湯のゲンジボタル生息地と渋の地獄谷噴泉が指定されている。建築物は本地域内での指定はないが、志賀高原の麓に位置する湯田中渋温泉地（公園区域外）の複数の旅館が有形文化財として登録されている。

文化財等の指定は受けていないものの、旧志賀高原ホテル（現志賀高原歴史記念館）は、日本最初のスキー用本格的ホテルとしてドイツ人の指導で建てられたもので、大暖炉、ステンドグラス等は昭和初期の和洋を調和させた建造物として優れており、志賀高原の歴史を知る上でも重要である。

(2) 利用の現況

本地域の利用者数は、「平成 28 年観光地利用者統計調査結果（長野県）」によると、平成 28 年は 2,240,300 人であり、このうち 7 月から 8 月にかけての利用者数は 683,800 人である。また、「平成 28－29 年スキー・スケート場の利用者統計調査結果（長野県）」によると、平成 28 年から 29 年にかけてのスキー場の利用者数は 980,000 人であり、北信地域における利用者数の約 4 割を占めている。本地域では、スキー場の利用者数に次いで夏期の利用者数が多い。夏季の利用においては、湿原周辺のトレッキング、登山、林間学校などが主要なものとして挙げられ、本地域の自然資源を活かした利用形態が多く取られている。

本地域はこれまでの団体スキーや団体旅行という観光形態から、より魅力的で滞在日数の多い、様々なアクティビティを楽しむことができる旅行形態への変化を模索しており、特に夏季におけるスキー場利用や様々な湖沼におけるアクティビティ利用が計画されつつあるのも特徴であるほか、これまで遊漁が主であった雑魚川等においてもカヤックやキャニオニング等新たな取組が見られるようになってきている。

(3) 社会経済的背景

ア 土地所有別

本地域は、公園区域 24,986ha のうち、国有地 12,181ha（48.8%）、公有地 2,016ha（8.1%）、私有地 10,789ha（43.2%）であり、国有地の占める割合が一番大きいものの、私有地の占める割合が比較的大きく、主な利用の拠点を形成しているのが特徴である。これは、麓の湯田中渋温泉地区の方々の入会地として管理されてきた土地であり、現在でも主に 2 つの一般財団法人により管理されている。

イ 人口及び産業

本地域に関する各町村の世帯数及び人口は、「平成 27 年国勢調査結果（総務省）」によると次のとおりである。

| 県名 | 町村名 | 世帯数（世帯） | 人口（人） |
|-----|-------|---------|--------|
| 長野県 | 山ノ内町 | 4,465 | 12,429 |
| | 木島平村 | 1,564 | 4,658 |
| | 野沢温泉村 | 1,159 | 3,479 |
| | 栄村 | 775 | 1,953 |

平成 22 年調査と平成 27 年調査の比較では、全ての町村で人口及び世帯数が横ばいしないし減少となっている。

本地域の主要な産業は、スキー場や旅館経営等の観光業である。

ウ 権利制限関係

(ア) 保安林

(国有林)

| 種 類 | 位 置 | 重複面積 (ha) | 指定年月日 |
|--------|---------------|--------------|-------|
| 水源かん養 | 長野県下高井郡山ノ内町地内 | 5,581 | — |
| | 長野県下高井郡木島平村地内 | 4,421 | — |
| | 下水内郡栄村地内 | 1,720 | — |
| 土砂流出防備 | 長野県下高井郡木島村地内 | 254 | — |
| 保健 | 長野県下高井郡木島平村地内 | 130 | — |

(同一箇所でも 2 種類以上の保安林に指定されているものについては、種類別にとりまとめた。)

(民有林)

| 種 類 | 位 置 | 重複面積 (ha) | 指定年月日 |
|--------|---------------|--------------|-------|
| 水源かん養 | 長野県下高井郡山ノ内町地内 | 2,112 | — |
| 土砂流出防備 | 長野県下高井郡山ノ内町地内 | 688 | — |
| | 下水内郡栄村地内 | 151 | — |
| 土砂崩壊防備 | 長野県下高井郡山ノ内町地内 | 4 | — |
| 保健 | 長野県下高井郡山ノ内町地内 | 635 | — |
| 風致 | 長野県下高井郡山ノ内町地内 | 36 | — |

(※保安林の指定は複数回に分けて行われていることから、指定年月日の記載は割愛する。)

(イ) 鳥獣保護区

(県指定)

| 種 類 | 位 置 | 重複面積 (ha) | 当初指定年月日 |
|-------------------------|---------------|------------------|-------------------|
| 地獄谷鳥獣保護区 | 長野県下高井郡山ノ内町地内 | 600 | 昭和 31 年 10 月 31 日 |
| 焼額鳥獣保護区 | 長野県下高井郡山ノ内町地内 | 944 | 昭和 36 年 10 月 31 日 |
| 安南平鳥獣保護区 | 長野県下高井郡山ノ内町地内 | 650 | 昭和 28 年 10 月 31 日 |
| 志賀高原鳥獣保護区 (うち特別保護地区) | 長野県下高井郡山ノ内町地内 | 3,402 (1,138) | 昭和 30 年 10 月 31 日 |

(ウ) 史跡名勝天然記念物

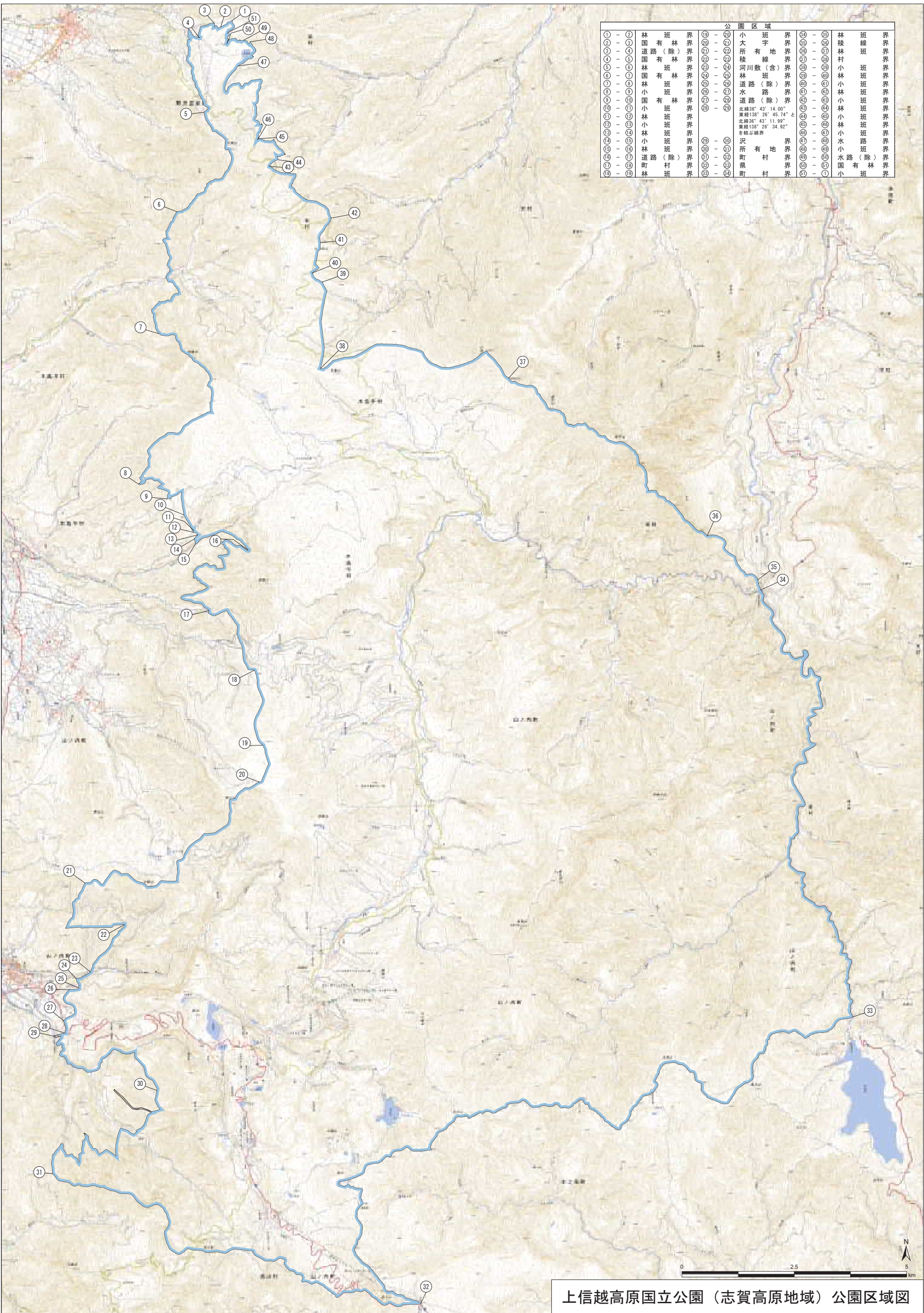
| 区 分 | 名 称 | 位 置 | 指定年月日 |
|------------|-------------------|-----------------|-------------------|
| 国指定天然記念物 | 志賀高原石の湯のゲンジボタル生息地 | 長野県下高井郡山ノ内町地内 | 平成 20 年 3 月 28 日 |
| | 渋の地獄谷噴泉 | 長野県下高井郡山ノ内町地内 | 昭和 2 年 4 月 8 日 |
| | イヌワシ | 地域を定めず指定 | 昭和 40 年 5 月 12 日 |
| | ヤマネ | 地域を定めず指定 | 昭和 50 年 6 月 26 日 |
| 国指定特別天然記念物 | カモシカ | 地域を定めず指定 | 昭和 30 年 2 月 15 日 |
| 県指定天然記念物 | 四十八池湿原 | 長野県下高井郡山ノ内町地内 | 昭和 48 年 3 月 12 日 |
| | 田ノ原湿原 | 長野県下高井郡山ノ内町地内 | 昭和 48 年 3 月 12 日 |
| | 一の瀬のシナノキ | 長野県下高井郡山ノ内町地内 | 平成 13 年 3 月 29 日 |
| | ホンドオコジョ | 地域を定めず指定 (長野県) | 昭和 50 年 11 月 4 日 |
| | ホンシュウモモンガ | 地域を定めず指定 (長野県) | 昭和 50 年 11 月 4 日 |
| | ベニヒカゲ | 地域を定めず指定 (長野県) | 昭和 50 年 2 月 24 日 |
| | ミヤマモンキチョウ | 地域を定めず指定 (長野県) | 昭和 50 年 2 月 24 日 |
| 町指定天然記念物 | 地獄谷のサル | 長野県下高井郡山ノ内町地内 | 昭和 47 年 3 月 1 日 |
| | 地獄谷のヒメギフチョウ | 長野県下高井郡山ノ内町地内 | 昭和 49 年 5 月 3 日 |
| | 稚児池湿原 | 長野県下高井郡山ノ内町地内 | 昭和 51 年 10 月 30 日 |
| | 田ノ原の天然カラマツ | 長野県下高井郡山ノ内町地内 | 昭和 55 年 3 月 22 日 |
| | ニホンリス | 地域を定めず指定 (山ノ内町) | 昭和 49 年 5 月 3 日 |
| 町指定名勝 | 潤満滝 | 長野県下高井郡山ノ内町地内 | 昭和 55 年 3 月 22 日 |
| | 幕岩 | 長野県下高井郡山ノ内町地内 | 昭和 55 年 3 月 22 日 |
| 村指定天然記念物 | カヤの平北湿原 (北ドブ) | 長野県下高井郡木島平村地内 | 昭和 60 年 1 月 5 日 |
| | カヤの平南湿原 (南ドブ) | 長野県下高井郡木島平村地内 | 昭和 60 年 1 月 5 日 |

3 公園区域

上信越高原国立公園志賀高原地域の区域を次のとおりとする。

(表 1：公園区域表)

| 都道府県名 | 区 域 | 面積(ha) |
|-------|--|--------|
| 長野県 | 下高井郡山ノ内町内 国有林北信森林管理署 30 林班から 49 林班まで及び 176 林班の全部 下高井郡山ノ内町 大字佐野、大字平穏及び大字夜間瀬の各一部 | 18,177 |
| | 下高井郡木島平村内 国有林北信森林管理署 56 林班から 64 林班まで、142 林班から 146 林班まで及び 152 林班の全部並びに 54 林班、55 林班、150 林班、151 林班及び 153 林班から 156 林班までの各一部 下高井郡木島平村 大字上木島の一部 | 4,472 |
| | 下高井郡野沢温泉村内 国有林北信森林管理署 127 林班から 130 林班までの各一部 下高井郡野沢温泉村 大字豊郷野沢の一部 | 400 |
| | 下水内郡栄村内 国有林北信森林管理署 50 林班から 53 林班までの全部並びに 54 林班、55 林班、121 林班から 124 林班まで、126 林班及び 127 林班の各一部 下水内郡栄村 大字塚の一部 | 1,936 |
| | 合計 | 24,986 |



| 公園区域 | |
|------|------|
| ① | 林班界 |
| ② | 国有林道 |
| ③ | 国有林道 |
| ④ | 国有林道 |
| ⑤ | 国有林道 |
| ⑥ | 国有林道 |
| ⑦ | 国有林道 |
| ⑧ | 国有林道 |
| ⑨ | 国有林道 |
| ⑩ | 国有林道 |
| ⑪ | 国有林道 |
| ⑫ | 国有林道 |
| ⑬ | 国有林道 |
| ⑭ | 国有林道 |
| ⑮ | 国有林道 |
| ⑯ | 国有林道 |
| ⑰ | 国有林道 |
| ⑱ | 国有林道 |
| ⑲ | 国有林道 |
| ⑳ | 国有林道 |
| ㉑ | 国有林道 |
| ㉒ | 国有林道 |
| ㉓ | 国有林道 |
| ㉔ | 国有林道 |
| ㉕ | 国有林道 |
| ㉖ | 国有林道 |
| ㉗ | 国有林道 |
| ㉘ | 国有林道 |
| ㉙ | 国有林道 |
| ㉚ | 国有林道 |
| ㉛ | 国有林道 |
| ㉜ | 国有林道 |
| ㉝ | 国有林道 |
| ㉞ | 国有林道 |
| ㉟ | 国有林道 |
| ㊱ | 国有林道 |
| ㊲ | 国有林道 |
| ㊳ | 国有林道 |
| ㊴ | 国有林道 |
| ㊵ | 国有林道 |
| ㊶ | 国有林道 |
| ㊷ | 国有林道 |
| ㊸ | 国有林道 |
| ㊹ | 国有林道 |
| ㊺ | 国有林道 |
| ㊻ | 国有林道 |
| ㊼ | 国有林道 |
| ㊽ | 国有林道 |
| ㊾ | 国有林道 |
| ㊿ | 国有林道 |
| 50 | 国有林道 |
| 51 | 国有林道 |

上信越高原国立公園（志賀高原地域）公園区域図